

マンションの内装木質化 内装材施工後のトラブルを防ぐために

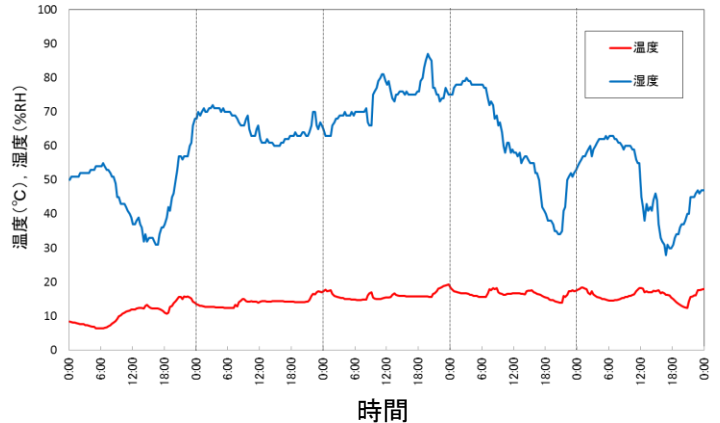
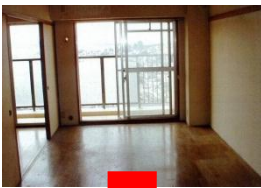
【背景と目的】

- 県では「ひょうごの木造・木質化作戦」の一環として、県内世帯の2割近くを占めるマンションの内装木質化を推進しています。
- マンションは高気密で空調を多用するケースが多いため、温湿度の変化が著しく、事業者が施工後の寸法変化によるトラブルを恐れて木材の利用を敬遠するケースが多くあります。



そこで、本試験では寸法変化の程度を事前に把握することで、これらのトラブルを回避することを目的に、仕上がり含水率の異なるスギ板材の寸法変化を測定しました。

マンション内装 木質化の事例



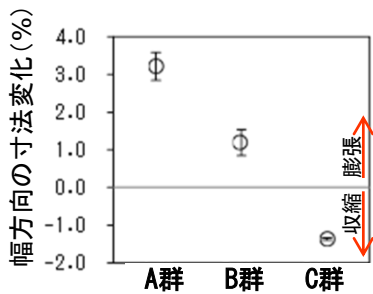
ノギスによる実測



π(パイ)型変位計
によるリアルタイム測定

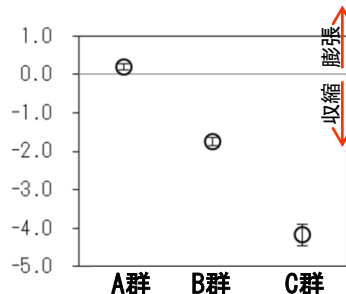


県産スギ板材(板目)を仕上がり含水率
の異なる3群に分けて寸法変化を測定



加湿した場合
(65%RH→90%RH)

A群: 7.9~10.9 (平均 9.1)%
B群: 16.2~18.5 (平均 17.7)%
C群: 95.9~260.5 (平均 126.7)%



乾燥した場合
(65%RH→30%RH)

まとめ

- 仕上がり含水率によって寸法変化の状況が異なります。
- 製品の含水率は一律ではありません(納品後も変化)。
- 簡易水分計等で含水率を把握し、高めの場合には収縮、低めの場合には膨張を念頭に置いた施工をすることで後々のトラブルが回避されます。

【成果の活用】業界にデータを提供し、施工現場で活用します。

兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター

